

『旧日本史A』，『旧日本史B』

問題作成部会の見解

『旧日本史A』

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解に基づいて，例えば，教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題，仮説を立て，資料に基づいて根拠を示したり，検証したりする問題や，歴史の展開を考察したり，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図，解答結果及び自己評価等

問題の内容については，「基本的事項の正確な理解や基礎的な力を問う問題が主体」であり，「知識の理解の質を問う問題や，思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランス良く出題され」たことから，「全体的な得点のちらばりは適正であった」との評価をいただいた。加えて，「特定の分野・領域への偏りがなく，学習指導要領に示された範囲から出題されていた」と判断していただいた。総括的には，今回の出題によって，「思考力・判断力・表現力等を重視する学習指導要領の指針に合致するもので，高等学校段階における基礎的な学習の達成度を判定するための試験として適切であった」との評価をいただいた。これは部会としても喜びとするところである。今後もこうした評価をいただけるよう継続して努力していきたい。一方で，「文字資料が多く，絵画や写真などの資料を活用する設問にもう少し多様性があったてもよかった」との指摘もいただいている。この点については，今後の課題としたい。

第1問 学習指導要領日本史A 2 内容(2)ア(イ)のうち「日露戦争前後の対外関係の変化」や「国際環境」の「推移について考察させる」や，(2)ウの「近代における政治や経済，国際環境，国民生活や文化の動向が相互に深くかかわっているという観点から，産業と生活，国際情勢と国民，地域社会の変化などについて，具体的な歴史的事象と関連させた適切な主題を設定して追究し表現する活動を通して，歴史的な見方や考え方を育てる」や，(3)アの「占領政策」に「着目して，我が国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について考察させる」を踏まえ，戦前から戦後を生きた元教員の目線を通して，近現代の社会・文化・経済・政治に関する理解と，分析的・関連的思考力を問うことをねらいとした。全ての小問において極端な正答率は出でおらず，問4については，正答率が3割を下回っているが，最上位者を識別する問題となっている。

問1は，19世紀後期における政府の士族をめぐる近代化政策に関する知識の理解度を問うた。問2は，史料から読み取った情報と習得した知識を活用して，明治国家の特徴を捉える力と，明治期のキリスト教に関する知識について問うた。問3は，明治期の産業や文化に関する基礎的な知識の理解度を問うた。問4は，史料の内容を正確に把握した上で，読み取った情報と習得した知識を活用して，歴史的事象を時系列的に捉える力とあわせて問うた。問5は，史料の内容を正確に把握した上で，その内容とメモの情報とを整合的に捉えられているか，なおかつ昭和戦中期やその前後の時代における

歴史的事実を理解できているかを問うた。問6は、史料の内容を正確に把握した上で、読み取った情報と習得した知識を活用して、当時の人が置かれていた社会状況を捉えられるかを問うた。問7は、敗戦後における「帝国」日本の解体がどのような影響を及ぼしたのかを理解できているかを問うた。

今後も受験者の思考力・判断力・表現力等を適切に問えるような、資料を積極的に活用する出題を心掛けたい。

第2問 学習指導要領日本史A2内容(2)ア(ア)の「近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出、文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる」という点を踏まえた作問である。そのなかでも特に、近代の鉄道遺跡の学習をテーマとして、文明開化期の西洋技術の導入とその特質、関連して前提となる幕末期の外交・内政の変化について、史料や図(錦絵)、メモや表を用いて知識・理解及び分析的思考力を問うことをねらいとした。ほぼ全ての小問において極端な正答率は出ておらず、正答率・識別力において妥当だった。問4については、正答率が8割を上回っているが、成績中下位者を識別する問題となっている。

問1は、明治新政府の殖産興業政策を踏まえ、工部省と内務省の設立時期、省務の特質と実際の政策について、鉄道を事例に知識・理解を問うた。問2は、ペリー来航以後の国内政治の変化を踏まえつつ、江戸幕府による大船建造の解禁法令を素材にして、史料を読解する技能と、江戸時代における鎖国政策についての知識・理解を問うた。問3は、ペリー来航以後の日本と外国との関係について、江戸幕府の外交の展開と、外国との交流の開始に伴って発生した歴史的事象を、時系列で把握する分析的思考力を問うた。問4は、日本の近代化に関して、メモと表を用いてその特質を読み取る分析的思考力及び知識・理解を問うた。

基本的知識の理解、資料の積極的活用、テーマを掘り下げて考察する力、などの点を適切に問えるよう、今後も様々な出題形式・テーマ設定を心掛けたい。

第3問 学習指導要領日本史A2内容(2)イ(イ)の「諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、国内の経済・社会の動向、アジア近隣諸国との関係に着目して、二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化について考察させる」、(2)ウの「近代における政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向が相互に深くかかわっているという観点から、産業と生活、国際情勢と国民、地域社会の変化などについて、具体的な歴史的事象と関連させた適切な主題を設定して追究し表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を育てる」を踏まえ、日本のアジア政策を基軸に、来日する中国人留学生の増減の原因、日本における中国料理の受容などを通じ、近現代の社会・文化・経済・政治に関する理解と、分析的・関連的思考力を問うことをねらいとした。大問としては極端な得点率にはならず、正答率・識別力において妥当だった。問3及び問7については、正答率が8割を上回っているが、成績中下位者を識別する問題となっており、問1及び問6については、正答率が3割を下回っているが、最上位者を識別する問題となっている。

問1は、明治期の日朝関係に関する知識の理解度を問うた。問2は、国民の国家に対する姿勢の変化とその背景を段階的に理解し、判断できているか問うた。問3は、明治大正期の日中関係に対する基礎的な知識を使って、メモ・グラフの情報を参考に、日中関係の変遷を読み取る分析的思考・関連的思考力を問うた。問4は、第一次世界大戦に日本がどうかかわっているか、また日本にどのような影響を与えたのか、知識・理解を問うた。問5は、第一次世界大戦後の協調外交・対中強硬外交について、順序立てて学習できているか、知識・理解を問うた。問6は、史料や表の内容を正確に把握した上で、日本の植民地統治の変容について習得した知識と史料や図表の情報を関連的・整合的に捉えられているかを問うた。問7は、史料の内容を正確に把握した上で読み取った情報と、習得した知識を活用して、中国料理が受け入れられる社会的背景を考察する力を問うた。

受験者の思考力・判断力・表現力等を適切に問えるような、資料を積極的に活用する出題となった。また中国料理のような受験者に身近な題材から日本史の学習へと導く出題を試みることができた。

第4問 学習指導要領日本史A 2 内容(2)「近代の日本と世界」のうちイ (ア)「産業革命の進行，都市や村落の生活の変化と社会問題の発生，学問・文化の進展と教育の普及，大衆社会と大衆文化の形成」に着目し，日本史Aの学習内容に即して関連史料を示しつつ，近代における工業化の過程について問うた。さらに，(3)「現代の日本と世界」のうちイ「戦後の経済復興，高度経済成長と科学技術の発達，経済の国際化，生活意識や価値観の変化」に着目し，関連史料も示しつつ，敗戦後の経済発展，公害問題などについて問うことにより，「日本経済の発展と国民生活の変化」について考察させることをねらいとした。全ての小問において極端な正答率は出でおらず，正答率・識別力において妥当だった。

問1は，製糸業・綿紡績業に関する重要な技術や人物を問うた。問2は，鉄道網の整備拡充を内地のみならず満州まで含めて問うた。問3は，史料を用いて，大阪の煤煙が生活に与えた影響に関する理解について問うた。問4は，グラフを用いて，戦前の鉄鋼業の発展や工業化の過程についての理解を問うた。問5は，資料を用いて，足尾銅山鉍毒事件に関する理解について問うた。問6は，四大公害と革新自治体について問うた。問7は，近現代の産業発展，公害問題に関する総合的理解を問うた。

受験者に馴染みがあまりない近現代の経済の歴史に関する多様な論点について，様々な出題形式で問うことができた。今後も受験者の思考力・判断力・表現力等を適切に問えるような，資料を積極的に活用する出題を心掛けたい。

第5問 学習指導要領日本史A 2 内容(2)「近代の日本と世界」のうちイ (イ)「諸国家間の対立や協調関係と日本の立場，国内の経済・社会の動向，アジア近隣諸国との関係に着目して，二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化について考察させる」に着目して，第二次世界大戦中における対外関係と国民生活について問うた。さらに，(3)「現代の日本と世界」のア「現代日本の政治と国際社会」のうち「占領政策と諸改革」，及びイ「経済の発展と国民生活の変化」のうち「生活意識や価値観の変化」に着目し，日記史料を読み解くことによって戦中・戦後の社会と個人に起きた変化について考察させることをねらいとした。ほぼ全ての小問において極端な正答率は出でおらず，正答率・識別力において妥当だった。問7については，正答率が8割を上回っているが，成績中下位者を識別する問題となっている。

問1は，第二次世界大戦中の学生等の体験についての知識を問うた。問2は，第二次世界大戦期の国際関係上の重要な出来事についての分析的・関連的思考力を問うた。問3は，田辺聖子が体験した阪神・淡路大震災についての知識を問うた。問4は，近現代の文化に関して，その担い手と作品についての知識・理解を問うた。問5は，敗戦直後の社会・文化についての知識・理解を問うた。問6は，敗戦後の政治史を正確に把握しているかの判断力・知識を問うた。問7は，日記史料の全体を踏まえて，戦中・戦後の国民生活及び社会参加の変化に関する総合的理解を問うた。

第二次世界大戦期から敗戦後に書かれた日記を素材にして，政治，外交，文化と幅広い分野にわたる出題を試みた。今後も受験者の思考力・判断力・表現力等を適切に問うことができるような，史資料を積極的に活用した出題を心掛けたい。

3 ま と め

今年度の平均点は，前年度より11.91点高い53.95点であった。今年度の試験が経過措置用であったことによるもので，おおむね標準的な問題を作成できたと判断している。来年度以降も，科目の問題作成方針に則り，知識・理解の質と思考力・判断力・表現力等を組み合わせて正解を導けるよ

うな問題作成を進めたい。本部会は従来から、問題作成上の留意点として以下の4点を挙げてきた。

- (1) 高等学校教育の範囲と水準を逸脱することなく、標準的な問題を作成するように心掛ける。
- (2) 高校現場での授業に配慮する。
- (3) 問題領域や設問形式のバランスや文字資料・図版資料・地図・表・グラフの適切な使用に留意しつつ、「歴史的思考力」を問う問題をより多く出題するような工夫をする。
- (4) 『旧日本史B』との共通問題について、難易度に一層配慮する。

今後、『旧日本史A』と『旧日本史B』はなくなるが、これまでの知見の蓄積を活用しつつ、ご指摘いただいたことも踏まえて、新課程の問題作成につなげていきたい。

『旧日本史 B』

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解に基づいて，例えば，教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題，仮説を立て，資料に基づいて根拠を示したり，検証したりする問題や，歴史の展開を考察したり，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図，解答結果及び自己評価等

出題の内容については「知識・理解に偏ることなく，諸資料を活用しながら思考力・判断力・表現力等をバランス良く問うための工夫」が見られ，「地域の歴史素材や生活史的な資料を題材とした出題もあり，身近な歴史に基づく出題」であったと評価していただいた。難易度についても適正であったと判断していただいている。総括的には，「高等学校の日本史の内容を，身近な歴史素材を活用し総合的に解答することができる問題」であり，「用語の暗記だけではなく，日本史を多面的に考察するねらいが明確な作問であった」との評価をいただいた。これは部会としても喜びとするところである。今後もこうした評価をいただけるよう継続して努力していきたい。一方で，大問によっては「分野の偏りがやや見られた」との指摘もいただいている。この点については，今後の課題としたい。

第1問 学習指導要領日本史 B 2 内容(1)ウのうち「古代国家の推移，文化の特色とその成立の背景」，(2)イのうち「中世国家の形成過程や社会の仕組み，文化の特色とその成立の背景」，(3)ウのうち「幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展」，(4)の「近代国家の形成と社会や文化の特色について，国際環境と関連付けて考察させる」ことを踏まえ，古代の対外関係や政治の特徴，中世の社会のあり方，近世の交通，近代の馬の改良・統制について作問した。全ての小問において極端な正答率は出でおらず，正答率・識別力において妥当だった。

問1は，4世紀から6世紀の倭国と朝鮮半島との関係について，知識・理解を問うた。奈良時代の政治について時系列で理解できているかを問うた。問2は，古代の国家による馬の飼育と利用について，関連的思考力を問うた。問3は，中世の絵画に描かれた内容と中世社会の特徴との関係について，知識・理解と分析的思考力を問うた。問4は，近世の輸送方式である中馬の特徴とその背景となる交通制度のあり方について，知識・理解と分析的思考力を問うた。問5は，馬の改良・統制の背景となる戦争や社会のあり方について，知識・理解と関連的思考力を問うた。問6は，軍事と馬をテーマとするここまでの内容について，知識・理解と関連的思考力を問うた。

今後も受験者の思考力・判断力・表現力等を適切に問えるような，資料を積極的に活用する出題を心掛けたい。

第2問 学習指導要領日本史 B 2 内容(1)「原始・古代の日本と東アジア」を踏まえて作問した。

ア「遺跡や遺物，文書など様々な歴史資料の特性に着目し，資料に基づいて歴史が叙述されていることなど歴史を考察する基本的な方法を理解させ」ること，イ及びウの「東アジア世界との関係」を踏まえて，古代国家の展開や社会の変化について考察させること，また「歴史への

関心を高める」ことを目指し、地名という身近なテーマや正倉院文書の具体例などを導きとして、基礎的な知識・理解、資料に対する分析的・関連的・判断的思考力を問うた。ほぼ全ての小問において極端な正答率が出ておらず、正答率・識別力において妥当だった。問2については、正答率が8割を上回っているが、成績中下位者を識別する問題となっている。

問1は、新羅とはどのような国か、教科書レベルの基礎的な知識・理解を問うた。問2は、7～8世紀の対外関係について、年表から必要な正しい情報を探し出し、正誤を判断する力を問うた。問3は、8世紀後半の東アジア情勢についての教科書レベルの基礎的な知識・理解を問うた。問4は、平安時代の対外交易について、史料から必要な情報を読み取り、基礎的な知識・理解と関連付ける力を問うた。問5は、古代の対外交易について、史料と表の情報を合わせて分析し、正誤を判断する力を問うた。

古代の東アジア国際情勢について、多様な資料を基に考える出題を試みた。今後も、受験者が自身の知識と多様な資料の読み取りから正答を導き出せるような出題を心掛けたい。

第3問 学習指導要領日本史B2内容(2)「中世の日本と東アジア」のア「歴史の解釈」に規定された「歴史資料を含む諸資料を活用して、歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係を考察するなどの活動を通して、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈させる」ことを下敷きに、イ「中世国家の形成」にかかる「武士の土地支配」、「宋・元などとの関係」、「仏教の動向」、「中世国家の形成過程や社会の仕組み」、ウ「中世社会の展開」にかかる「日本の諸地域の動向」、「産業経済の発展」、「庶民の台頭」などに準拠して出題するものである。全ての小問において極端な正答率が出ておらず、正答率・識別力において妥当だった。

問1は、中世の文化と宗教の関係性について、知識・理解及び関連的思考力を問うた。問2は、鎌倉時代の僧侶の社会的活動の観点から、宗教と技術の関係性に関する知識・理解及び判断的思考力を問うた。問3は、鎌倉・室町時代の民衆が残した石造物と金石文及び寺院が記録した史料の双方を読み、正長の土一揆に関する知識・理解及び関連的思考力を問うた。問4は、室町幕府の将軍の権力基盤と文化性について、知識・理解及び判断的思考力を問うた。問5は、石臼の利用に関する考古学的情報と寺院の日記史料の情報をを用いて、室町時代の社会や生活に関する分析的・判断的思考力を問うた。

今後も受験者の思考力・判断力・表現力等を適切に問えるような、史資料を積極的に活用する出題を心掛けたい。

問4問 学習指導要領日本史B2内容(3)イのうち「幕藩体制下の政治・経済基盤」や「近世国家の形成過程とその特色や社会の仕組みについて考察させる」、ウのうち「欧米諸国のアジアへの進出」や「学問・思想の動き」や「近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察させる」を踏まえ、近世の政治・社会・対外関係に関する総合的理解と、分析的・関連的思考力を問うことをねらいとした。多くの小問において極端な正答率が出ておらず、正答率・識別力において妥当だった。問1及び問5については、正答率が8割を上回っているが、成績中下位者を識別する問題となっている。

問1は、近世の政治・社会に関する知識・理解を踏まえ、政治・支配の基本方針や理念を時代の背景の中で把握する関連的思考力を問うた。問2は、近世の死生観に関係する政策に関する知識・理解と、近世の史料を読解する技能について問うた。問3は、近世の災害に関する知識・理解と、それと関連する歴史事象を踏まえて年代順に並べ替える分析的思考力について問うた。問4は、近世の医療政策及び関連する人物に関する知識・理解について問うた。問5は、近世の政治・学問に関する知識・理解を問うとともに、幕末にかけての欧米諸国に対する認識の特徴を考察する関連的思考力について問うた。

近世社会に関する基本的な知識，資料を積極的に活用してテーマについて掘り下げて考察する力などの点を適切に問えるよう，今後も様々な出題形式・テーマ設定を心掛けたい。

第5問 学習指導要領日本史B 2 内容(4)アの「開国と幕府の滅亡，文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化，自由民権運動と立憲体制の成立に着目して，明治維新以降の我が国の近代化の推進過程について考察させる」ことを踏まえた作問である。近代の鉄道遺跡の学習をテーマとして，文明開化期の西洋技術の導入とその特質，関連して前提となる幕末期の外交・内政の変化に関する知識・理解を踏まえ，史料や図，メモや表を用いて分析的思考力を問うことをねらいとした。ほぼ全ての小問において極端な正答率は出ておらず，正答率・識別力において妥当だった。問4については，正答率が8割を上回っているが，成績中下位者を識別する問題となっている。

問1は，明治新政府の殖産興業政策を踏まえ，工部省と内務省の設立時期，省務の特質と実際の政策，具体的に日本最初の鉄道開業についての知識・理解を問うた。問2は，ペリー来航以後の国内政治の変化を踏まえつつ，江戸幕府による大船建造の解禁法令を素材にして，史料を読解する技能，江戸時代における鎖国政策についての知識・理解を問うた。問3は，ペリー来航以後の日本と外国との関係について，江戸幕府の外交の展開と，外国との交流の開始に伴って発生した歴史的事象を，時系列で把握する分析的思考力を問うた。問4は，日本の近代化に関して，メモと表を用いてその特質を読み取る分析的思考力及び知識・理解を問うた。

基本的知識の理解，資料の積極的活用，テーマを掘り下げて考察する力などの点を適切に問えるよう，今後も様々な出題形式・テーマ設定を心掛けたい。

第6問 学習指導要領日本史B 2 内容(4)「近代日本の形成と世界」のうちウ「近代産業の発展と近代文化」に着目して，日本史Bの学習内容に即して関連史料を示しつつ，近代における工業化の過程について問うた。さらに(6)「現代の日本と世界」のうちイ「戦後の経済復興，高度経済成長と科学技術の発達，経済の国際化，生活意識や価値観の変化」に着目し，関連史料も示しつつ，敗戦後の経済発展，公害問題などについて問うことにより，「日本経済の発展と国民生活の変化」について考えてもらうことをねらいとした。多くの小問において極端な正答率は出ておらず，正答率・識別力において妥当だった。問1，問3，問7については，正答率が8割を上回っているが，成績中下位者を識別する問題となっている。

問1は，製糸業・綿紡績業に関する重要な技術や人物を問うた。問2は，鉄道網の整備拡充を内地のみならず満州まで含めて問うた。問3は，史料を用いて，大阪の煤煙が生活に与えた影響に関する理解について問うた。問4は，グラフを用いて，戦前の鉄鋼業の発展や工業化の過程についての理解を問うた。問5は，資料を用いて，足尾銅山鉍毒事件に関する理解について問うた。問6は，四大公害と革新自治体について問うた。問7は，近現代の産業発展，公害問題に関する総合的理解を問うた。受験者に馴染みがない近現代の経済の歴史に関する多様な論点について，様々な出題形式で問うことができた。

今後も受験者の思考力・判断力・表現力等を適切に問えるような，資料を積極的に活用する出題を心掛けたい。

3 ま と め

今年度の平均点は，前年度より12.04点高い68.31点であった。今年度の試験が経過措置用であったことによるもので，おおむね標準的な問題を作成できたと判断している。来年度以降も，科目の問題作成方針に則り，知識・理解の質と思考力・判断力・表現力等を組み合わせて正解を導けるような問題作成を進めたい。本部会は従来から，問題作成上の留意点として以下の4点を挙げてきた。

(1) 高等学校教育の範囲と水準を逸脱することなく，標準的な問題を作成するように心掛ける。

- (2) 高校現場での授業に配慮する。
- (3) 問題領域や設問形式のバランスや文字資料・図版資料・地図・表・グラフの適切な使用に留意しつつ、「歴史的思考力」を問う問題をより多く出題するような工夫をする。
- (4) 『旧日本史B』との共通問題について、難易度に一層配慮する。

今後、『旧日本史A』と『旧日本史B』はなくなるが、これまでの知見の蓄積を活用しつつ、ご指摘いただいたことも踏まえて、新課程の問題作成につなげていきたい。